

第 33 回北東アジア地域研究会・国立民族学博物館拠点（月例会）報告

令和元（2019）年 12 月 27 日に国立民族学博物館内において第 33 回月例会を開催いたしました。中田梓音（民博外来研究員）、池谷和信（民博教授・北東アジア地域拠点長）が「第 9 回アジア食研究会議（THE 9TH ASIAN FOOD STUDY CONFERENCE）に参加して」というタイトルで報告しました。

参加者は北東アジア地域研究館内構成員 2 名、館内研究者 2 名、民博外来研究員 1 名、総研大院生 3 名の合計 8 名でした。

2019 年 11 月にマレーシアの首都クアラルンプールで開催された第 9 回アジア食研究会議について、その会議で研究報告をした中田研究員とパネルの座長を務めた池谷拠点長が会議の概要を紹介しました。

また、中田研究員が会議で報告したすきやきにまつわる研究を紹介しました。高級感のある食べ物の代表格であった「すきやき」の現代的な地位をめぐる変化を明らかにしました。参加者からもすきやきに対する様々な思いが述べられるとともに、アジアの食文化の多様性にまで議論が及びました。